

**■CMV infection と CMV disease (臓器疾患として症状有り) は異なる**

CMV は世界中に分布しており、多くの人々が感染している。一度感染すると一般的には生涯にわたって潜伏し、通常は無症候性である。CMV disease が問題となるのは、固形臓器移植患者、HIV 感染者、造血幹細胞移植患者などの免疫抑制者である。

**■CMV の定期的スクリーニング**

免疫抑制者に対しては、アンチゲネミア (CMVpp65 抗原に対するモノクローナル抗体を用いて、CMV 抗原陽性細胞を染色して証明) を用いる。Preemptive therapy を行うこともある。

**■CMV disease の診断**

○間質性肺炎 (労作時呼吸困難、乾性咳、両側のびまん性陰影、SpO<sub>2</sub> 低下)

生検による病理学的所見の証明: gold standard だが、患者への侵襲や負担が大きい。

BALF を用いた PCR 法、免疫染色法: いずれも感度優れるが、陽性的中率低い。

免疫染色で陽性時に CMV 肺炎の治療開始し、PCR 法が陽性ならば治療継続、陰性の場合には治療を終了するというアルゴリズムを提唱する文献もある。

○消化管病変 (食道潰瘍: 痛みや嚥下困難、大腸炎: 重度の水様便や、熱、時に血便)

潰瘍: 内視鏡で浅い潰瘍、大腸炎: 内視鏡でプラーク状の偽膜、多数の糜爛、蛇行状の潰瘍  
病変部の生検を行い、核内封入体を確認する。生検した組織から CMV を培養する

○網膜炎 (CMV disease で最多。放置すると進行性に網膜細胞の破壊が進み、4-6 ヶ月で失明)  
熟練した眼科医に診断を依頼。特徴的な眼底所見 (下写真)。

○中枢神経病変 (多発性神経根障害が最多で腰部痛から下肢から上向する麻痺と膀胱直腸障害)  
PCR を用いた脊髄液中の CMV DNA の検出。脊髄液中の CMV の培養。

○肝炎 (症状はあっても軽度。肉芽腫性肝炎では熱、悪心、リンパ球増加)  
肝生検で散在する肉芽腫を確認。

参考文献: Up to Date *Diagnosis of cytomegalovirus*

Harrison's Principles of INTERNAL MEDICINE

Infectious Diseases

感染症治療のエビデンス

